

生態工学 2020 年度第 1 回理事会議事録

日 時:2020 年 5 月 26 日(火)14:30~15:30

場 所:Web 開催(Zoom)

【総務委員会】

2019 年度総務委員会活動報告

(1) 会員数・賛助会員数

会員数:2020 年 5 月 22 日現在(カッコ内は 2019 年 4 月 1 日からの増減)

終身会員 1 名(増減なし)

正会員 304 名(増減なし)

学生会員 78 名(6 名増)

合計 383 名(6 名増)

賛助会員数:4 団体 5 口(3 団体 4 口減)

ダイキン工業株式会社(2 口)、ホテイ産業研究所(1 口)、

宇宙システム開発株式会社(1 口)、クリムゾンインタラクティブ(1 口)

会費未納者に早期納入をお願いする。

(2) 審議事項

・第 11 回 日本学術振興会が募集する育志賞受賞候補の推薦者を募ることとなった。

・予算健全化に向けて

表彰委員会で経費削減を検討することとなった。

編集委員会で論文の投稿料を見直すこととなった。

表彰委員会と編集委員会の検討結果について、6 月上旬にメール理事会を開催し、審議する予定。

(3) 報告事項

・参加を予定していた農業環境工学関連 5 学会 2020 年合同大会が新型コロナウイルスの感染症の感染拡大にともない中止となった。

・高橋 秀幸 理事より、理事職退任の申し出があり、これを承認した。

・村松 晋 名誉会員がご逝去された。

・相賀 一郎 名誉顧問がご逝去された。また当会から供花を行った。

・耐圧硝子工業株式会社より、2019 年度をもって賛助会員から退会の申し出があった。

・日本農業工学会賞 2020 表彰式・フェロー授賞式が 5 月 15 日に予定されていたが、新型コロナウイルス感染症の拡大にともない、延期となった。

【編集委員会】

2019 年度編集委員会活動報告

下記の報告がなされた。

(1) 生態工学会誌の発刊

生態工学会誌「生態工学」31 巻 2 号～32 巻 1 号(2019 年 4 月、7 月、10 月、2020 年 1 月発刊)を発行した(内容:原著論文、短報 1、特別寄稿1、ニュース・企画・報告 2、お知らせ、投稿規程、総ページ数 84)。なお、2020 年 5 月 9 日時点での査読・著者修正中の論文は、原著論文 2 報、短報 0 報、受理済み原著論文 7 報、受理済み短報 2 報である。
また、32 巻 1 号までを J-STAGE 上の電子ジャーナルとして公開した。

種類	2019 年度「生態工学」掲載論文一覧			
	第 31 巻		第 32 巻	
	2	3	4	1
特別寄稿				
特集論文				
原著論文	1	1		
短報			1	1
総合論文				
解説・資料			1	
受賞記念寄稿				
ニュース・企画・報告				

(2) 編集委員会の実施

2019 年度は 1 回の編集委員会および 3 回のメール会議を実施した。

(3) 学会賞の推薦

奨励賞として岩永征士氏の「異なる担体に固定化した TiO₂ によるエチレンの光触媒分解への湿気を含んだ空気の影響」(Vol. 31, No. 2)を推薦した。論文賞は武田美恵氏の「石垣島の農業集落における住民同士のコミュニケーションと農家の農業意欲及び生産支援に関する研究」(Vol. 31, No. 3)、鄧博慶氏の「小型 UAV を用いたカラマツ林の 3 次元リモートセンシングとその精度評価」(Vol. 30, No. 1)、西野康人氏の「結氷期の能取湖における海氷と水柱の低次生産層における環境動態」(Vol. 28, No. 1)の 3 編を推薦した。

2020 年度編集委員会 事業計画

下記の計画が報告された。

(1) 生態工学会誌の発刊

32 巻 2 号～33 巻 1 号までの計 4 回の発刊を行う。随時、特集企画を組んで紙面の充実を図るとともに、総合論文、特集記事などの投稿依頼を積極的に行う。また、生態工学会学術賞受賞者に寄稿をお願いする。さらに、原著論文の投稿増加を目指す。

(2) 投稿規程等の整備

必要に応じて投稿規程等を実態に即した形に随時改定する。

(3) 原著論文の査読体制についての整備

必要に応じて原著論文の査読体制をより迅速なものにするための改定を行なう。

(4) 学会誌電子ジャーナルの公開

今年度も科学技術情報発信・流通総合システム「J-STAGE」において、本学会誌を電子ジャーナルとして公開する。公開に関する詳細については、利用状況を参考にしながら必要に応じて改定する。

【企画委員会】

2019年度企画委員会活動報告

下記の報告がなされた。

(1) 日本地球惑星科学連合2019年大会(合同開催)

日 時:2019年5月26日(日)~5月30日(木)

会 場:幕張メッセ、東京ベイ幕張ホール(千葉市)

主 催:日本地球惑星科学連合

特記事項:5月26日にセッション「圏外環境における閉鎖生態系と生物システム」において、
口頭発表とポスター発表を実施

(2) 2019年度生態工学会年次大会(主催)

日 時:2019年6月28日(金), 29日(土)

会 場:宇都宮大学峰キャンパス大学会館(栃木県宇都宮市)

参加数:74名

特記事項:

■ 一般セッション口頭発表 14件、ポスターセッション18件

■ オーガナイズドセッション(3企画)

「ISS後の有人宇宙活動に向けて一月面とその周回軌道を舞台に一」 5件

「草本系バイオマス作物エリアンサスを用いた原料生産とバイオ燃料利用技術」

3件

■ 一般公開特別講演会

講演1 カラスなぜ遊ぶ

宇都宮大学名誉教授 東都大学教授 杉田 昭栄氏

講演2 生態系の中の植物ウイルス

宇都宮大学理事・副学長 農学部教授 夏秋 知英氏

(3) 第63回宇宙科学技術連合講演会(共催)

日 時:2019年11月6日(水)~11月8日(金)

会 場:アスティとくしま(徳島県徳島市)

特記事項:

■ 11月7日(木)にオーガナイズドセッション「宇宙で生きる! ~ISSの彼岸~」を企画し、15件の発表を実施した。物理化学的ECLSS、生物的ECLSS、食糧生産などの最新研究の紹介のみならず人口冬眠など宇宙で生きるための新しい話題提供などもあった。リーマンサットなどのニューススペースの参加もあった。

(4) 第2回 生態工学サロン

特記事項:新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止とした。

(5) 定例研究会

第1回

テーマ:光環境制御による付加価値植物の高効率生産

日 時:2019年5月28日(火)

会 場:東京文化会館

講 師:大橋 敬子 氏(玉川大学農学部)

第2回

テーマ:LEO/宇宙探査動向とそれを見据えた当社の取り組み

日 時:2019年10月31日(木)

会 場:東京文化会館

講 師:峰松 拓毅 氏(有人宇宙システム株式会社)

第3回

テーマ:生態系動態モデルを用いた流入栄養塩の影響評価～東京湾の場合～

日 時:2020年2月20日(木)

会 場:東京文化会館

講 師:坂本 絢香 氏

2020年度企画委員会事業計画

下記の計画が報告された。

(1) 2020年度生態工学会年次大会(主催)

日 時:2020年6月26日(金)～7月9日(木)

会 場:オンライン大会

特記事項:新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンライン大会で開催する。総会、表彰式、受賞者講演、口頭発表セッションをオンライン会議方式、ポスターセッションをWEB公開方式で実施する。

(2) 日本地球惑星科学連合2020年大会(合同開催)

日 時:2020年7月12日(日)～7月16日(木)

会 場:オンライン開催

主 催:日本地球惑星科学連合

特記事項:セッション「圏外環境における閉鎖生態系と生物システムおよびその応用」を提案していたが、日程延期に伴い取り下げることにした。

(3) 第64回宇宙科学技術連合講演会(共催)

日 時:2020年10月27日(火)～10月30日(金)

会 場:富山県民会館(富山県富山市)

特記事項:オーガナイズドセッション「宇宙で生きる!～ISSの彼岸～」を実施予定

(4) 第2回 生態工学サロン(主催)

日 時:6月27日(土)

会 場:Web開催

※次世代科学社会活性化委員会と共同して行うこととなった。

(5) 定例研究会

第2回以降の理事会後に実施する予定

【表彰委員会】

2019年度表彰委員会活動報告

下記の報告がなされた。

(1) 表彰式、受賞記念講演の実施

2019年度総会(2019年6月28日, 宇都宮大学峰キャンパス大学会館)後に表彰式を行ない, 以下の通り表彰した。

【学術賞】

渡邊 博之 氏

LEDを光源とした植物工場の開発に関する研究

【論文賞】

板倉 健太 氏

移動型スキャニングライダーによる樹高測定に必要な移動距離の算出および地上および高所からの3次元画像の位置合わせによる樹高測定

(2) 2019年度年次大会における優秀発表の表彰

2019年度年次大会における優れた研究発表に対して, 以下の通り表彰した。

【優秀講演賞】

遠藤 良輔 氏

機械学習による植物葉画像からの形態的特徴の抽出

奥岡 佳純 氏

ワサビ栽培における最適な遮光資材の評価

遠藤 雅人 氏

クエ養殖廃水を用いたサリコルニア *Salicornia bigelovii* の水耕栽培に関する基礎的研究

田中 都 氏

ホップ香気成分の分析条件およびターゲット成分の検討

西野 康人 氏

溶存酸素濃度の経時的動態による一次生産力測定法の検討

遠藤 良輔 氏

異なる鉄濃度で培養したメタン発酵におけるメタゲノミクス・分光特性の統合解析

(3) 被表彰者の選考

2020年度被表彰候補者について審議し, 以下の通り選考した。

【学術賞】

穂原 昌司 氏

食品評価へのフotonカウンティング技術の応用に関する研究

【論文賞】

鄧 博慶 氏

小型 UAV を用いたカラマツ林の 3 次元リモートセンシングとその精度評価

武田 美恵 氏

石垣島の農業集落における住民同士のコミュニケーションと農家の農業意欲及び生産支援に関する研究

西野 康人 氏

Ecology and Hydrography of Sea Ice and the Water Column in Lagoon
Notoro-ko during Frozen Period.

(結氷期の能取湖における海氷と水柱の低次生産層における環境動態)

2020 年度表彰委員会事業計画

下記の計画が報告された。

(1) 表彰式の実施

2020 年 6 月 26 日の総会後に表彰式を行ない、2020 年度被表彰者を表彰する。

(2) 被表彰者の募集と選考

各賞の被表彰者の募集および候補者の選考を表彰規定に基づき実施する。

【広報委員会】

2019 年度広報委員会活動報告

下記の報告がなされた。

(1) SEE Quick(メール配信)の運営

SEE Quick 配信依頼に対する取り扱い方法の運用を通して、会員および関連学会からの情報の速やかな配信業務が成し遂げられ、2019年4月1日から2020年3月31日までに63回(通算1590回)情報提供を行った。

(2) HP の内容の更新

会員および一般の方へ、生態工学会の情報伝達を迅速に行うことを目的に、HP コンテンツ確認作業を行い、適宜内容を更新した。

2020 年度広報委員会事業計画

下記の計画が報告された。

(1) SEE Quick 配信(メール配信)の運営

円滑な SEE Quick の配信業務を行うとともに、問題点などを検証し改善に努める。
また、会員からの有用な情報を迅速に配信できる体制を維持する。

(2) HP の内容の更新

迅速な HP の内容の更新と整備を行い、会員および一般の方への情報提供を行う。また、HP コンテンツ拡充のため、他学会 HP 等の内容を調査し、当学会 HP の充実・改善に努める。

【国際委員会】

2019 年度国際委員会活動報告

下記の報告がなされた。

カセサート大学から定期的に送付してもらった Agriculture and Natural Resources 掲載内容を事務局から本会会員へ通知してもらい、希望者に閲覧できるようにした。タイ国カセサート大学の前回会議代表者が九州大学を12月に訪問した際、国際会議開催に向けての現況を説明するとともに、引き続き会議開催に向けた費用獲得に努めることを伝えた。

2020 年度国際委員会事業計画

下記の計画が報告された。

引き続き、タイ国大学との国際会議開催に向けた費用獲得を模索する。また、カセサート大学機関誌と生態工学会誌の相互閲覧を行うようにし、関係維持に務める。

【次世代科学社会活性化委員会】

2019 年度次世代科学社会活性化委員会活動計画

下記の報告がなされた。

- (1) 引き続き、男女共同参画学協会連絡会の運営委員として活動を継続している。生態工学会は、男女共同参画学協会連絡会内で、日本宇宙生物科学会と供に、「男女共同参画学教会連絡会」に関する問題洗い出し WG 活動を行っている。
- (2) 地球惑星科学連合大会 2019 で、本委員会による若手の会を開催した。次回も予定している。次世代科学社会応援シンポジウム 2020 委員会の合同会議として加藤浩委員を中心に開催した。次世代応援シンポジウムは、今後は当委員会が中心で進めることになった。
- (3) 参加を予定していた男女共同参画学協会連絡会主催のシンポジウムが台風 19 号の関東直撃のため中止された。要旨原稿を提出していることから、要旨原稿の参加となった。
- (4) 次世代科学社会応援シンポジウム 2021 を協賛する予定で、本学会、三重大学の加藤浩理事を中心に進めていたが、延期となった。次世代科学社会応援シンポジウムは、生態工学会当委員会の主催として進めることとなった。

2020 年度次世代科学社会活性化委員会事業計画

下記の計画が報告された。

- (1) 引き続き、男女共同参画学協会連絡会の運営委員として活動を継続している。生態工学会は、男女共同参画学協会連絡会内で、日本宇宙生物科学会と供に、「男女共同参画学教会連絡会」に関する問題洗い出し WG 活動を行っている。同様に引き続き本 WG 活動を行う。
- (2) 地球惑星科学連合大会 2020 年大会で、本委員会による若手の会の継続を予定していたが、大会開催参加を新型コロナの関係で辞退した。今回は辞退したが、今後も継続する予定である。次世代科学社会応援シンポジウム 2020 を、加藤浩実行委員長のもと、6 月 27 日にウェブで開催することとなった。次世代応援シンポジウムは、今後も当委員会が中心で進める予定である。

【事業推進委員会】

2019 年度事業推進委員会活動報告

下記の報告がなされた。

2019 年度は 2018 年度の年次大会で定めたテーマ「語り合おう今、未来を！私たちの地球、そして宇宙、熱く。」に基づいて事業推進が出来る仕掛けづくりの検討を進めていく方針でスタートし、次の取り組みを行った。

- ・過去 10 年間の事業推進委員会の活動をまとめて見える化
 - ・田中前事業推進委員長と高山事業推進副委員長とで活動内容の打合せを実施
 - ・特に若手会員の増強を目指して学生による発表会を企画
- (その後、田中前事業推進委員長は転勤により、委員長職を離職したので中断)

2020 年度事業推進委員会事業計画

下記の計画が報告された。

2020 年度は若手およびシニア(例えば会社をリタイアされた方々)の会員増強をはかり、気軽に継続して活動に参加でき、またオンラインを活かすなど、コロナとの共存時代にも相応しい新たな事業推進の仕掛けづくりの検討を進めていく。

【各支部活動】

2019 年度各支部活動報告

下記の報告がなされた。

【関東支部】

- (1) 関西支部で、関東支部として微細藻類に関する講演を行った。その際に、民間企業へ生態工学会を紹介し関西支部会に参加頂いた。
個人会員として参加して、実績を付けてから企業会員を検討するとの意向になった。
- (2) シンポジウム企画
海洋大学遠藤先生起案により、陸上養殖勉強会と共催によるシンポジウムを企画中。関東支部メンバーを加え、具体化を進める。

【関西支部】

〈合同シンポジウム開催〉

関西支部では、支部会活動の活性化および学会会員増強のため 2014 年度より日本農業気象学会近畿支部との共催によるシンポジウムを行ってきた。2019 年度は生態工学会関西支部・日本農業気象学会近畿支部との共催で特別講演会を開催した。

特別講演会「気候変動とその生態系や私達の暮らしへの影響を考える(5)」

生態工学会関西支部・日本農業気象学会近畿支部共催

日時: 2019 年 11 月 30 日(土) 14:30~16:45

場所: 大阪府立大学学術交流会館

〒599-8531 堺市中区学園町1-1

1. 古典籍から調べる植物と環境
青野靖之 (大阪府立大学生命環境科学研究科)
 2. 地球温暖化が植物の揮発性炭化水素放出に及ぼす影響
奥村智憲 (大阪府環境農林水産総合研究所)
 3. 微細藻類培養に関する二、三の知見
増田篤稔 (玉川大学農学部)
- 17:00 頃～ 《情報交換会》



増田先生のご講演の様子

本年度は関西支部会員に個別で上記特別講演会の案内メールを送付した。その結果、関西支部からの参加者が例年よりも増え、特別講演会全体として 41 名のご参加をいただけて、盛会となった。ま

た、講演会後の情報交換会も含めて新たな入会につながる活動も行えたという成果があった。

【九州・沖縄支部】

九州大学農学研究院でイノベティブバイオアーキテクチャーセンター主催の講演会において、生態工学会の紹介、会員募集などを行った。

2020 年度各支部事業計画

下記の計画が報告された。

【関東支部】

会員の増強を検討する。

他学会との共同でのシンポジウムを検討予定。

海洋大学遠藤先生、玉川大学大橋先生などを中心に関東支部で検討中である。新型コロナ状況により日時は不明。

【関西支部】

〈合同シンポジウム開催〉

2020 年度も農業気象学会近畿支部との合同シンポジウムを 11 月下旬～12 月上旬に開催を予定したい。(詳細は未定)

〈支部会員交流・情報交換〉

オンラインでの支部会員交流の行事を計画したい。(内容は未定)

【九州・沖縄支部】

九州地区の会員数増加に努める。九州大学開催のセミナー等で生態工学会を紹介する。

【2020 生態工学会 年次大会】

2020 生態工学会 年次大会の(<http://www.see.gr.jp/event/2020/taikai.html>)の準備状況が報告された。

2019 年度会計報告・2019 年度会計監査報告

生態工学会2019年度収支決算

2020.3.31現在
(単位:円)

費目	科 目	実績金額	備 考 (内訳)
	I 収入の部		
1	個人会費	1,183,000	正会員109名 学生会員14名(1名過入金あり,過入金料6000円) 当該年度外(正会員)31名 当該年度外(学生会員)2名
2	賛助会費	400,000	8口
3	年次大会	527,940	年次大会参加費、広告料
4	シンポジウム等	0	
5	定例研究会	0	
6	研究部会	0	
7	学会誌掲載料・広告料等	296,600	学会誌掲載料、別刷り代、広告料
8	資料代	66,759	学術著作権協会使用料分配金など
9	利息	3	
10	雑収入	0	
	当期収入合計(A)	2,474,302	
	前年度繰越金	1,364,192	
	事務所開設積立金取崩	1,073,089	
	収入合計(B)	4,911,583	
	II 支出の部		
11	総会・年次大会経費	551,533	
12	シンポジウム等経費	10,000	
13	会誌作成費・同送料	729,425	
14	定例研究会	0	
15	研究部会	0	
16	広報宣伝費	0	ホームページの経費は事務局通信費に含まれる
17	事務局経費	1,636,455	事務局委託費 1,311,232 通信費 296,684 雑費(印刷、運搬経費など) 28,539
18	関連学協会等経費	266,270	日本農業工学会、日本地球惑星科学連合、男女協同参 画学協会
19	理事会経費	42,800	会場費など
20	委員会経費	0	
21	表彰経費	145,304	
	その他	6,000	学生会員の年会費過入金返金(1名)
	当期活動費支出合計(C)	3,387,787	
	当期活動費収支差額(A)-(C)	-913,485	
	事務所開設積立(D)	0	
	当期支出合計(E)=(C)+(D)	3,387,787	
	次年度繰越金(B)-(E)	1,523,796	

事務所積立金	
1990年～2019年までの積立額	¥10,000,000
2019年3月31日までの利息	¥71,986
2020年3月31日までの利息	¥1,103
<u>2019年度取崩</u>	<u>¥1,073,089</u>
2020年度残高	¥9,000,000

監査報告書

2019年4月1日より2020年3月31日に至る期間に於ける生態工学会の収支決算報告書を監査した結果、正当かつ妥当であることを認めます。

生態工学会 会計監査 清水 庸

吉田洋明

※収取報告書につきましてはただいま会計監査中です。

2020 年度会計予算案

科 目	2020年度予算	2019年度決算	備 考 (2020年度予算内訳)
I 収入の部			
個人会費	1,210,000	1,183,000	正会員125名 学生会員25名 当該年度外(正会員)15名 当該年度外(学生会員)5名
賛助会費	250,000	400,000	5口
年次大会	100,000	527,940	年次大会参加費、広告料
シンポジウム等	50,000	0	
定例研究会	0	0	
研究部会	0	0	
学会誌掲載料・広告料等	900,000	296,600	学会誌掲載料、別刷り代、広告料
資料代	66,000	66,759	学術著作権協会使用料分配金など
利息	0	3	
雑収入	0	0	
当期収入合計(A)	2,576,000	2,474,302	
前年度繰越金	1,523,796	1,364,192	
事務所開設積立金取崩	0	1,073,089	
収入合計(B)	4,099,796	4,911,583	
II 支出の部			
総会・年次大会経費	100,000	551,533	
シンポジウム等経費	50,000	10,000	
会誌作成費・同送料	1,000,000	729,425	
定例研究会	0	0	
研究部会	0	0	
広報宣伝費	0	0	ホームページの経費は事務局通信費に含まれる
事務局経費	1,289,000	1,636,455	事務局委託費 1,023,000 通信費 246,000 雑費(印刷、運搬経費など) 20,000
関連学協会等経費	164,000	266,270	日本農業工学会、日本地球惑星科学連合、男女協同 参画学協会、日本工学会、日本農学会など 会場費など
理事会経費	32,100	42,800	
委員会経費	0	0	
表彰経費	150,000	145,304	
その他	0	6,000	
当期活動費支出合計(C)	2,785,100	3,387,787	
当期活動費収支差額(A)-(C)	-209,100	-913,485	
事務所開設積立(D)	0	0	
当期支出合計(E)=(C)+(D)	2,785,100	3,387,787	
次年度繰越金(B)-(E)	1,314,696	1,523,796	

事務所積立金	
1990年～2018年までの積立額	¥10,000,000
2020.3.31までの利息	¥71,986
2019年度利息	¥853
2019年度取崩	¥0
2019年度残高	¥10,072,839